

国有林を活用した研修会の開催

〔東信署、森林整備課、技術普及課〕 11月22日、長野県林務部主催による「コンテナ苗を用いた伐採から造林までの一貫作業による再造林のコスト低減に向けた研修会」が東信森林管理署管内の伐採・造林一貫作業システム実行地において、県内地方事務所林務課担当者や関係事業体を対象に、総勢27名が参加して開催されました。

この研修は、人工林の森林資源が充実する中で主伐等による木材生産を増加させ森林資源の循環を図るため、コンテナ苗を用いて伐採から植栽までの一貫作業における低コスト化の要点を学び、民有林での一貫作業システムの普及とコンテナ苗の使用拡大を図ることを目的に開催したもので、高性能林業機械を活用して伐採・搬出と地拵を同時進行で行い、植栽までを実施する「一貫作業システム」を率先して導入している中部森林管理局に、長野県から研修会開催の協力依頼があったものです。

研修会では、林務部森林づくり推進課担当者から県内のコンテナ苗の状況説明、東信署及び森林整備課担当者からは事業概要や伐採・造林一貫作業システムによる低コスト化の効果などについて説明しました。

また、国有林のフィールドを活用して伐採・造林一貫作業システムやコンテナ苗の調査研究をしている、長野県林業総合センター担当者から、伐採搬出の生産性や機械を利用した地拵、コンテナ苗植栽等のコストについても説明がありました。

参加者からは、再造林コストに係わる質問等も出され、森林所有者の負担軽減等、森林・林業に関わる地域の課題解決のために、今後も国有林を活用した研修会等を通じて、民国連携した技術の共有を推進していくこととしています。



国有林での研修会の様子